令和８年度

第１回　那須町総合教育会議　会議録

那須町教育委員会

令和８年度　第１回那須町総合教育会議録

令和８年６月11日13時30分から、令和８年度第１回那須町総合教育会議が開催され、その結果は次のとおりであります。

１　本会議の出席者は次のとおりであります。

町長部局

町長	平山　幸宏
総務課長	鬼澤　　努
財政課長	髙藤　　建

教育委員会

教育長	平久井好一
教育委員	菊地　厚子
教育委員	菊地　昭一
教育委員	金田裕美子
教育委員	大島　一行
学校教育課長	島村　育男
こども未来課長	赤羽根泰啓
生涯学習課長補佐	大田原智美
こども未来課長補佐	鈴木　元子
こども未来課長補佐	髙久美菜子
学校教育課長補佐	藤田　健一
こども未来課係長	遠山　京子

１　本会議の議事は次のとおりであります。

協議事項

（１）子育て支援センターにおける思春期保健事業について

（２）その他

1　開　会

島村学校教育課長

定刻となりましたので、ただ今より令和８年度第１回那須町総合教育会議を開催いたします。進行を務めさせていただきます学校教育課の島村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度第１回の那須町総合教育会議の開催となりますので、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。本日の次第の出席者名簿の順で自己紹介をお願いします。

（町長部局・教育委員会自己紹介）

島村学校教育課長

皆さま、ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、平山町長よりご挨拶をお願いいたします。

2　あいさつ（平山町長）

皆様、本日はご多用のところ、令和８年度第１回総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃より本町の教育行政及び子育て支援の充実にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本日の協議事項は、「子育て支援センターにおける思春期保健事業について」であります。

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、心身の発達に関する悩みや不安、人間関係、インターネットやSNSとの関わりなど、思春期特有の課題も多様化・複雑化しております。そのような中、子どもたちが健やかに成長していくためには、学校だけでなく、家庭や地域、関係機関が連携しながら支えていくことが重要であると考えております。

子育て支援センターは、乳幼児期の支援の場としてだけでなく、保護者にとって身近な相談窓口としての役割も担っております。今後、思春期を迎える子どもたちやその保護者への支援について、どのような取り組みが必要であるのか、また、教育と保健福祉がどのように連携していくべきかを考えることは、大変意義深いものであります。

本日は、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、本町の子どもたちの健やかな成長につながる有意義な協議となることを期待しております。

皆様のご協力をお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶といたします。

島村学校教育課長
　それでは、協議事項に移らせていただきます。
　那須町総合教育会議設置要綱第４条第１項により、町長を議長として進めさせていただきます。

3　会議録の承認
議長：平山町長
　それでは、本会議を主宰する立場から議長を務めさせていただきます。
　円滑な議事運営に努めたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。
　はじめに、会議録の承認について学校教育課長より説明をお願いします。

島村学校教育課長
　総合教育会議の会議録は、那須町総合教育会議設置要綱第７条において、公表することになっております。
　昨年度第３回の総合教育会議の会議録について説明させていただき、公表について承認をいただきたくお願いいたします。

　会議録に沿って説明

議長：平山町長
　ありがとうございました。
　ここで、お時間を取りますので、会議録の内容についてご確認をお願いします。

～内容確認～

　それでは、会議録について、ご意見やご質問などがございましたら、お願いいたします。

全出席者
　ありません。

議長：平山町長
　ご確認をいただきまして、ありがとうございました。
　それでは、会議録について承認をいただけますか。

全出席者
　承認

議長：平山町長
　ありがとうございました。

4　協議事項
　それでは、(1)子育て支援センターにおける思春期保健事業について、意見交換をさせていただきます。
　事務局から子育て支援センターの現状および今後の見通しについて、説明を求めます。

～こども未来課説明～

議長：平山町長
　それでは、ご意見、ご感想などがございましたら、お願いいたします。

菊地(厚)委員
　私は、民生委員としても保健センターに関わりがありまして、この 10 年の間に随分支援体制が変わってきたなと思っております。学校に在籍しているうちは、学校のやり取り等で、その子とつながっていられますが、学校を卒業した時点で、高校に進学しないで家にいる子どもたちを、どこまで支援できるのか等、大きな課題だったと思いますが、専門職の配備により学校間・関係機関との連携が密になり、そういう支援ができてきたのかなと思っております。ただ不安になるのは、引きこもりや相談できる窓口があることを知らない子どもがいるのではないかということです。そういうところはどうなのかなと思いますが、18 歳未満だけではなくて、20 歳前半の子まで支援をされているということが分かり安心しました。それ以降のことは、保健センターへのバトンタッチなど、小規模自治体ならではのスムーズな連携で支援できていることは、良いことだなと思いました。

議長：平山町長
　ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

金田委員
　3 の主な背景ということで、今、令和に入って特に感じているのは、その背景が変わってきたということです。それは、性のことでもそうですし、男女間のマインド、生活スタイル、我々が今まで過ごしてきたライフスタイルとは全くかけ離れた形の生活に、そういう背景がまずあるということです。それを踏まえた上での、サポートというのが大事だと思います。子どもたちから、専門職の方に相談をするということが、とてもハードルが高いと聞いております。私は、常々ピアサポートが大事ではないかなと思っており、いろいろな悩みの当事者が、忌憚のない対話の場があれば、それを前段階として設け、その後専門職につなぐというシステムができれば良いのかなと思います。また、不登校の保護者同士の交流やイベント

開催など、行政として後押しできれば良いなと思います。
　性教育において、女性側からの世界観、男性側からの世界観で、講師の方も女性と男性とペアで講演をしていただけると、子どもたちも分かりやすいのかなと思いました。
　質問ですが、困難ケースの支援というのは、どのようなケースが多く、どのような課題があって時間を要しているのでしょうか。

遠山こども未来課係長
　一つの例としまして、保護者自身のうつ病、経済的困難、世代間連鎖などが複合して長期化しているケースがあります。

平久井教育長
　午前中、要保護児童対策地域協議会がありまして、いろいろなケースがあり、家庭として機能しておらず、中心の人物がいない家庭は、外から働きかけても全然解決しないとか、子どもの問題点で家庭に話しかけても、お母さんも同じような病気とか、これは解決にはならず、そういう困難さというのはあります。もう少し詳しく鈴木こども未来課長補佐から説明していただきたいと思います。

鈴木こども未来課長補佐
　家族自体が回っていない家庭があり、子どもが誰に一番相談したいかというと、やはりお父さん、お母さんだと思いますが、そことの関係に愛着形成がされてなくて、自分で抱えた問題を他者に話せない、どう話していいのかわからないという子どもが、家庭や学校にいるような状況です。お父さん、お母さんの背景をみてみますと、経済的な問題もありますし、自分で虐待を受けて育ってきたために、子どもとどう接していいかわからないというご家庭もあります。虐待に関しては、しつけとして叩くことを正当化してしまうという、保護者の子育てに対する考え方が影響しております。見た目等も含め多様な保護者がいる中で、子どもにとっては“その親が唯一の親”ですので、私たちも関わり方を、どのように対応していくのか試行錯誤しております。

菊地（昭）委員
　自分たちの頃は、性の話は触れにくい時代で、教えてもらった記憶はなく、講師の先生が教えるのは大変だと思います。支援者不足とあるが、子どもが減っているのに不足しているのは考える必要があるのではないかと思います。

大島委員
　親（特に父親）から性教育の話は言いづらい部分があるので、学校に SSW がいれば相談しやすいのかなと思います。

議長：平山町長

ありがとうございます。

AI に相談する時代になり、利点もあるが 100%正しいわけではないことなど、子どもたちに教えていく必要があり、AI 活用がプラスになっているかの分析が必要だと思います。

菊地（厚）委員

悩みを AI に相談しているうちに、危険な方向へ引き込まれるリスクもあり、そういう問題がこれから出てくると思いますので、学校側としては、悩み事を相談するときのルールや危険度、AI がどのように答えを出すのかという原理も含めて、子どもたちに教える必要があると思います。

議長：平山町長

最終的には心の通う身近な人（家族・先生等）へつながることが大切で、そこから始めないと、何も解決しないということを教えていただきたいなと思います。

菊地(昭)委員

AI も含め、他者の助言は答えではなくヒントであり、それから先は、自分で咀嚼して、自分で考えて、自分を救っていくということを、子どもたちに分かってもらえたら良いなと思います。現代は、コンピューターだけでなくてすべてのものに依存しすぎていると思います。

鈴木こども未来課長補佐

困難ケースの子どもは、自分の言葉で困りごとを言えないケースが多く、本来なら、保護者へお伝えするのが解決の近道だと思いますが、保護者への支援を求められない場合、行政や関係機関が丁寧に関わっていかなければならないと思っております。子ども自身の自己肯定感が低いので、自信が持てるように関わり方を丁寧にしていかなければならないと考えております。AI の正しい使い方と、大人が伝えられることを二本立てで伝え、子どもが考え正しいことを選択できる力を育てたいと思います。

平久井教育長

ただの性教育だけでは、時代に遅れてしまう。令和 5 年刑法改正により、不同意性交等罪ができたことも踏まえ、国の資料等、内容を更新していく必要があり、学校でも発達年齢に応じた指導の中に、AI を活用していく必要があると思っております。

金田委員

北海道にべてるの家というのがあり、精神障害の方たちが一つの町の中で役割を持って、地域で暮らしていけるということを実践しているところです。そこでは当事者研究がされており、子どもが自分のことを見つめて、それを書いて、最終的にみんなで発表する、その様

子がとても和気あいあいとしていて、自然と悩みも言えて、誰がどのように困っているのかが自然と分かるような形でできているので、そこにヒントを感じたので、皆さんにも知っていただきたいなと思いました。

議長：平山町長
　貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。
　いただきましたご意見等については、今後の思春期保健事業の実施に向けて参考とさせていただきます。
　それでは、次の協議とさせていただきます。

議長：平山町長
　次に、(2)その他について、各課より何かありましたら、説明をお願いします。

（学校教育課長・こども未来課長）

各課長
　ありません。

大田原生涯学習課長補佐
　今年度、夏休み版アナザースクールということで、関係機関の方々にボランティアをいただきながら、小学校４年生から６年生を対象に、多様な体験の場を実施したいと思っております。一日文化センターでのカリキュラムを考えておりまして、午後は、高校生や大学生の方に来ていただいて、小学生と触れ合いを持ちながら寺子屋をやりたいと思っております。

議長：平山町長
　他に無いようですので、以上で、議題に関する協議は終了いたします。
　貴重なお時間をいただき、充実した会議となりましたことに、お礼を申し上げます。
　今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
　それでは議長の任を解かせていただきます。

5　その他
島村学校教育課長
　次第４　その他に移りますが、皆様から何かございますか。
　無ければ、これをもちまして協議事項はすべて終了させていただきます。

6　閉会

島村学校教育課長

閉会にあたり、教育委員を代表して平久井教育長よりご挨拶をいただきます。

平久井教育長

まずお礼を兼ねて、熱心なご議論ありがとうございました。

子育て支援センターにおける思春期保健事業について、議題になるというのは、こども未来課が教育委員会に編入されている、那須町ならではの中身なのかなと思いながら聞いておりました。思春期保健事業は那須町において、今後ますます力を入れていかなければならないと思っております。インターネットや SNS などとの関わりで、思春期特有の課題が多様化・複雑化しており、事前にきちんと指導をして、行動に移せるようにしないと子どもたちが、大変なことになってしまうような時代に入ってきてしまったと思っております。改めて子育て支援センターがやっている事業を見ると、非常に丁寧にやっており、生まれてから関わる人たちがずっとつながって、その子どもの事を十分理解して関わってくださっている、そういう内容ばかりです。那須町の特質として、小中学校との丁寧な連携、思春期講座の小学校高学年への拡大、OT、SSW、保健師、心理士、社会福祉士等の専門家が出生前から関わる相談体制ができております。先日、歯科診療の先生に、保育園で歯科検診をしてきて、虫歯保有率が改善され、かなり良くなっていると伺いました。検診のときに保健師や歯科衛生士が、保護者に指導している成果だと思います。今後も、関係機関と丁寧に連携しながら、一歩進んだ時代にあった事業を展開できればなと思っております。

本日は、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

島村学校教育課長

以上で令和 8 年度第 1 回那須町総合教育会議を閉会といたします。

本日はありがとうございました。